

# 畜産 FAX 情報 第 6 号

令和 6 年 8 月 1 日

発行：ゆとりみらい 2 1 農業推進協議会指導部会

## 1 飼料用とうもろこしの生育

本年は平年よりも気温が高く推移しており、飼料用とうもろこしの雄穂抽出期は平年より 5 日早い 7 月 22 日に、絹糸抽出期も平年より 5 日早い 7 月 24 日に迎えました。

## 2 飼料用とうもろこしのすす紋病対策

8～9 月の長期天気予報では、平均気温が高く推移します。

数日間の連続した降雨によって、すす紋病の発生リスクが高くなります。今年例年よりも草丈が高いため、例年発生しやすいほ場を中心に確認を行い、お盆までに初発が確認できた場合には殺菌剤の使用をおすすめします。防除等については JA または普及センターにご相談下さい。

表 1 すす紋病対策の殺菌剤の使用方法

殺菌剤名	希釈倍率	10a 当たり薬量 (水 100L)	使用時期
チルト乳剤 25	1,000 倍	100ml	収穫 7 日前まで

※本剤は野菜類、マメ類等の畑作物に飛散すると生育抑制や縮葉などの薬害を生じることがあるため、十分注意しましょう。

## 3 イエバエ対策

ハエは気温が 16～35℃の間で、気温が上昇する度に、卵から成虫までの生育期間が急激に短くなり大量発生します。特にイエバエは接触後なめるため、病原菌を媒介しやすい特徴があります。イエバエには**ベイト剤での誘引殺虫による成虫の駆除**（サシバエには無効）、ハエ全般には**発生源への IGR 剤の散布による幼虫の駆除**が効果的です。定期的な駆除対策で家畜を守る防疫体制をととのえましょう。